

釧路森林資源活用円卓会議（第2回人材育成研修会）について
「赤ちゃんからはじめる木の暮らし
～生涯木育のすすめ～」

1．開催日時 平成26年1月23日（木） 午後2時30分～午後4時45分

2．開催場所 釧路工業技術センター 2階会議室

3．参加人数 約50名

4．講演会の概要

- ・ ウッドスタートとは、子どもたちが人生最初のステージを、木の温もりを感じながら、楽しく豊かに送ることができるようにしていく取組。具体的には各地域で生まれた赤ちゃんに地産地消の木製玩具を誕生祝品としてプレゼントする事業、子育て支援施設の内装木質化・木育化、木育キャラバンの実施など6項目を展開している。国内12市町村でウッドスタートを宣言している。
- ・ ウッドスタートにより、木のおもちゃが家庭にあり、赤ちゃんの親たちにも木のファンになってもらうことを期待している。地元の木のおもちゃが「いいね」ということになれば、そこから地元の木材の食器、家具、学習机そして最終的には住宅の販売に繋がればよいと考えている。
- ・ 沖縄では「やんばる森のおもちゃ美術館」を開設したが、観光の拠点にもなっている。ウッドスタートは、地場の木材産業の発展に寄与するだけでなく、観光の拡大にもつながる。
- ・ 北海道の雨竜町では、知的ハンディキャップを持つ高校生が地元材で玩具を製作 町役場が赤ちゃん世帯に配布という取組を進め、高校生にとって仕事の「楽しさ」や「やりがい」を学べる大変貴重な機会になった。
- ・ 移動おもちゃ美術館ともいえる木育キャラバンというイベントを開催し、多くのお客さんにご来場頂いている。いきなりおもちゃ美術館を開設するのはハードルが高ければ、こうした取組みから始めたら良いと木育をはじめたい自治体にはアドバイスしている。
- ・ 今年は、自治体だけでなく企業版ウッドスタートにも力を入れて行く。木育は設備投資などにお金がかかるためコストばかりかかるように考えられるが、赤ちゃん木育を行うことにより、若い夫婦がターゲットとなり、顧客の若返りを図ることが期待でき企業にとってメリットもある。
- ・ 戦後すぐ日本ははげ山だったため、林野庁は「植樹」を始めた。植えたものが育ってきて「育樹」を始めた。これからは「活樹」の時代。川下（消費者側）からの木材を利用したいという熱いメッセージが森林、林業の発展につながる。



< 鈴木座長による挨拶 >



< 多田館長による講演 >